

第 68 回高エネルギー加速器研究機構経営協議会議事要録

日 時 令和 3 年 1 月 13 日（水）13 時 30 分 ～ 15 時 00 分

開催形態 ウェブ会議

出席者 伊佐間委員、小出委員、郷委員、合田委員、武田委員、田島委員、西島委員、野口委員、長谷川委員、三木委員、山内委員、内丸委員、岡田委員、幅委員、徳宿委員、小杉委員、山口委員、佐々木委員、齊藤委員
(欠席者 児玉委員、神谷委員)

陪席者 高橋理事、住吉監事、辻監事、藤澤総務部長、阿部財務部長、五味田研究協力部長、西施設部長、柴原総務課長、櫻井人事労務課長、梅崎主計課長、佐藤施設企画課長、柴沼監査室長、他

配付資料

1. 第 64 回経営協議会議事要録、第 65～67 回経営協議会議事要録（案）
2. 機構長解任に関する規程の制定及び経営協議会規程の改正について
3. 令和 3 年度機構内予算編成方針（案）
4. 令和 2 年度補正予算案及び令和 3 年度予算案
5. 令和元年度業務実績に関する評価結果について（通知）
6. 令和 3 年度概算要求事項
7. 素粒子原子核研究所報告

参考資料

1. KEK 基礎データ集（令和 2 年 1 月）
2. 財務諸表レポート（令和元年度）
3. 環境報告書 2020

議事に先立ち、山内議長から開会の挨拶があった。住吉監事、辻監事が 9 月 1 日から就任し、今後はオブザーバーとして陪席する旨の説明があった。その後、両監事から自己紹介があった。

引き続き、資料 1 の第 64 回議事要録については、既に確認いただいているため確定版として配付している旨の説明があった。また、第 65～67 回については会議終了までに確認いただいたところ、修正意見はなかった。

議 事

1. 審議事項

(1) 機構長解任に関する規程の制定及び経営協議会規程の改正について

藤澤総務部長から、資料2に基づき説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。

<主な質疑応答等>

機構長が辞任を申し出た場合の取り扱いはどのようになっているのか。

→機構長選考会議規程の第2条第2項第2号に辞任の申し出について規定されており、同選考会議の審議事項として取り扱うことになる。

(2) 令和3年度機構内予算編成方針について

内丸委員から、資料3に基づき説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。

COVID-19の影響による人の往来の減少に伴い、旅費の予算は大幅に削減することになるが、新しい研究様式のための自動化、リモート化を推進するための予算配分に重点を置く予定である。

2. 報告事項

(1) 令和2年度補正予算案及び令和3年度予算案について

内丸委員から、資料4に基づき報告があった。

<主な質疑応答等>

・PFについて運転時間は3,500時間とあるが、具体的にどのくらいの日数、どのような目的で運転をする予定か教えてほしい。

→12ヶ月のうちおよそ4ヶ月程度をユーザー運転として、大学と企業の研究者用としている。このうち成果非公開とする産業利用については、上限を2割程度としている。加えて、産業利用を中心とした週を1、2週間設けている。

・大学共同利用機関としてのユーザー運転時間は従来のどおり確保されているということではいか。また、PFは日本全体の放射光施設分野のロードマップの観点からの立ち位置も考えて、運転時間を確保しているのか。

→当該施設の予算としては厳しいが、機構からの補填もあり、最低でも3,000時間の運転時間の確保に努めている。共用施設として運転時間を確保できているSPring-8は例外として、PFの運転時間（産業利用含む）は、大学共同利用を含め数ある日本の放射光施設のなかでも圧倒的に確保できていると思う。一方、ユーザーの要望によると、運転時間がかなり不足しているとも感じている。

・令和3年度に認められた老朽化対策の施設整備のための予算はどの程度で、どのくらいの規模の事業が実施できそうなのか。

→当初予算要求のうち約7割が認められており、老朽化対策が進むと見込んでいる。

(2) 令和元年度業務実績に関する評価結果について

幅委員から、資料5に基づき報告があった。

<主な質疑応答等>

- ・注目事項にある新型コロナウイルス感染症対策により学校が臨時休業となった子供達への科学技術広報について、複数の機関が協力してコンテンツを提供しているとのことだが、82万件のアクセス数についての内訳はどのようになっているのか。

→KEKとして提供しているコンテンツにアクセスした利用者の合計である。

(3) 素粒子原子核研究所報告【BelleⅡについて（SuperKEKB 含め）】

徳宿委員から、資料6に基づき報告があった。

<主な質疑応答等>

- ・アメリカ、ヨーロッパ、アジア圏でそれぞれ参加しているが、最も参加人数が少ないアメリカ圏においては BelleⅡ 実験と競合する他のプロジェクトはあるか。

→高エネルギー実験は、KEK の他にアメリカ圏ではフェルミ国立加速器研究所 (FNAL)、ヨーロッパ圏では欧州合同原子核研究機関 (CERN) で行っている。各国間は競合関係ではなく協力関係にある。

- ・研究結果もしくは過程において特許や知的財産につながるような成果があった場合、各国間のルールはあるのか。宇宙ステーション分野ではこのような場合にもめ事を避けるルールがあるが、崩れてきたと感じている。日本だけが損するような状況にならないようにしていただきたい。

→基礎研究なので、特許につながるような成果は少ない。測定器開発の一部にはそのような要素はあるが、現在はこのような動きは起きていない。また、運転経費では各国で公平に負担するような動きもあり、年々フェアになってきていると感じている。

- ・COVID-19 の影響下の体制はどのくらいの続く想定して進めているのか。

→海外からの研究者はリモート実験で参加いただいております。来年度も引き続き同じ体制で進むと考えている。日本人だけの運転シフトだと公平にならないということもあり、コラボレーション内で対応を検討している。

- ・海外の研究機関における COVID-19 に関する状況について、分かる範囲で教えてほしい。

→CERN においては、12月の段階で約300名程度の関係者が感染したと聞いているが、研究所内で感染ではないと聞いている。また、CERNは運転が停止しているが、これは当初より予定されていた停止であり、COVID-19による影響ではない。

- ・リモート見学会の報告があったが、リモートであれば、例えば学校の授業とタイアップも可能ではないかと思うが、そのような検討はしているのか。

→ご提案いただいた取組ができると良いと思う。学校の教員に紹介して、取り上げてもらえるように働きかけることを関係者に提案していきたい。

- ・本件においては予算に関連した取組も紹介されており、教育研究に留めることなく、業績評価においても関連して評価されてよいのではないかと。専門外の評価者に理解いただける工夫をすれば、より一層の評価が得られる余地があると感じられる。

3. 自由討論

<主な質疑、発言等>

- ・歳入の減少と歳出が増えてきている社会情勢において、基礎研究の分野においてはより将来的に厳しいと感じていることがあると思うが、今後の方針について教えてほしい。
- COVID-19による影響に関わらず年々厳しくなっていると感じている。特に、この10年で一般運営費交付金は厳しく、人件費に直接影響が生じている。一方で、学術では高い評価をいただいております、プロジェクト経費等による研究活動は縮小することなく維持はできているが、見通しは厳しいと感じている。今後はCOVID-19による影響により世界経済が厳しくなると予想され、多方面で見直しが必要となると感じている。このような動きと関連して、文部科学省を中心に機構及び研究所の見直しが行われており、大学共同利用機関の検証も実施されたところである。
- ・令和3年度予算は健闘されていると感じている。今後も高い評価を維持するために分かりやすい表現に努め、良い評価が得られるようにしていただきたい。
 - ・国立大学法人の予算は、いくつかの大学あるいは機構をグループとし、決められた上限の中で配分される仕組みとなっている。その結果、グループ間で予算の取り合いとなり、得をした機構があれば損をした機構がいることになり、機構間でとても対応しにくい状況になっている。
- 予算においては、本機構は他機構と比較して減額されている考えられるため、元の配分を得られるよう努力していきたいと考えている。

4. 閉会

山内議長から、次回の経営協議会は令和3年3月24日（水）に開催することの報告があり、閉会した。

(以上)